

2023年1月23日
株式会社UniBio

東京大学医科学研究所ワクチン科学分野・石井健研究室との 植物からのワクチン開発に関する共同研究契約を締結

株式会社UniBio（本社：新潟県新潟市西蒲区、代表取締役 CEO：結城洋司）は、国立大学法人東京大学医科学研究所ワクチン科学分野の石井健研究室と、安全性の高い植物からのワクチン開発に関する共同研究契約を締結し、共同研究を開始しました。

共同研究内容・分担：株式会社UniBioはワクチン主成分候補となる複数の病原体ウイルス抗原をベンサムアナタバコ（*Nicotiana benthamiana*）植物から発現・抽出・精製し、次に東京大学医科学研究所ワクチン科学分野の石井健研究室はこれのワクチンとしての感染症予防能力評価を実施します。

石井健教授は感染症・免疫・ワクチン研究、とりわけワクチンの重大要素であるアジュバントの研究において我が国での第一人者であり、米国FDAでの研究、ワクチン臨床試験審査の経験、大阪大学や医薬基盤健康栄養研究所などでの豊富な研究成果等をもとに、「近未来ワクチンデザインプロジェクト」を立ち上げています。

株式会社UniBioは、創業以来一貫して、完全アニマルフリーを可能とする「安全・迅速・低コスト」を特長とする植物バイオ技術を活用した、タンパク質製品製造技術の開発を中心事業としてまいりました。複数の再生医療用原料製品の開発・製造実績を有し、これまで培ってきた豊富な開発設計と生産技術を応用することにより、本共同研究に貢献します。

新型コロナウイルスのパンデミックにより、私たちは改めてワクチンの重要性を、ワクチンは健康だけでなく経済や国防など全国民の生活を維持するための必需品であることを認識させられました。既に先進国首脳会議（G7）は2021年6月、次のパンデミックでは100日以内にワクチンを開発するという目標に合意しており、これまでの開発スケジュールからの期間短縮を、より一層推し進めています。

私たちは、ワクチン100日開発のための技術開発という目標に向かい、双方の強みを最大限生かし、安全性や信頼性そして価格競争力に優れた国産ワクチンの開発・供給体制構築に鋭意取り組んでまいります。

※用語説明

アジュバント：ワクチンと一緒に投与して、その効果（免疫原性）を高める為に使用される物質。抗原の一部の成分を精製して接種するワクチンは一般的に効き目が弱いので、アジュバントの添加が必要とされる。

※関連サイト

東京大学医科学研究所ワクチン科学分野・石井健研究室 (<https://vaccine-science.ims.u-tokyo.ac.jp>)

株式会社U n i B i o (<https://unibio-jp.com>)

※本件に関するお問合せ先

株式会社U n i B i o

E-mail: info@unibio-jp.com 担当：佐藤